

# 成東高校同窓会報

## 第4号

2013年12月25日

発行

成東九十九同窓会

編集責任者

畑戸輝夫(高3回)

印刷 (株)サト

### 学校規模

クラス数 24クラス  
(各学年8クラス)

生徒数 合計977名  
男子 505名(51.6%)  
女子 472名(48.4%)

卒業者数  
合計 28,040名  
旧制中学校卒 4,620名  
併設中学校卒 545名  
新制高等学校卒 22,875名

(平成25年12月1日現在)

## 夢と目標



同窓会長

清水新次  
(高15回)

寒い毎日が続いておりますが、成東九十九同窓会会員の皆様、お元気ですか。

昨年は、皆様の御協力、御支援をいただきながら同窓会の諸事業を実施することができました。今年も御支援、御協力の程よろしくお願い致します。

昨年の大きな出来事の一つとして、夢と思われていたオリンピックを七年後に東京で再度開催することが決定されました。今後は、「おもてなし」の心に満ちた大会をスムーズに開催し、そこで優れた成績をあげる

ことが具体的目標となりました。人たるもの夢や目標を持つて生きるが大切だといわれます。確かに大きな夢や具体的目標を持つていけば、その実現に邁進でき、毎日を生き生きと元気に過ごすことができるでしょう。

多くの会員の皆様も時代時代に対応し、年代など状況に応じながら、自分に合った夢や目標をお持ちのことと推察致します。

昨年、様々な同窓会にお招きを受け、出席させていただきましたが、どの同窓会も盛会で、参加会員の皆様がそれぞれの夢や人生目標などを時の経つのも忘れ熱心に語り合い、交流し、再会を誓っている姿が大変印象的でした。

これら同窓会のうち、特に心に残っているのは、昨年四月六日の観櫻会に合わせて開催された高二十二回卒の還暦記念学年同窓会です。この日観櫻会は桜が早く咲きすぎ中止になりましたが、同窓会は大変な盛り上がりで、私もいたく感動致しました。

夢と言えば、かつて成東高校野球部が甲子園出場一步手前で何度も挫折し、「夢の甲子園」と揶揄され続けた時代があり、平成元年、ようやく甲子園初出場、初勝利し、多くの会員に誇らしさと感動を与えてから、はや二十五年の歳月が経過しました。再出場に向けての厚い壁はあるにせよ、東京五輪開催が実現したように、再度の甲子園出場を願っている同窓会会員は多いのではないのでしょうか。また、野球部以外の部活動でも、五輪出場を目標に、シドニーオリンピック銀メダリスト永田克彦氏以来の活躍を期待したいものです。

このような夢に近い目標が実現されるよう、私達成東九十九同窓会員も、心を一にして、応援しようではありませんか。

そして、会員同士の交流や情報交換などを通じて、自らの夢や目標を一段と崇高で実現可能なものにしたいたいです。

会員の皆様の今後ますますの御健勝、御活躍を心からお祈り致します。



漫画家 立原あゆみ氏作品「一年冬」 ペンネーム 立原あゆみ氏より寄贈(本名 市川洋一氏 高17回)

# 第108回 九十九同窓会定期総会報告



平成25年度の第108回成東九十九同窓会定期総会が、去る平成25年8月4日(日)午前10時より、本校百周年記念館にて開催されました。



例年どおり、八月第一週の実施となった定期総会は、盛会でした。今年度は、高校第二三回卒業生の皆さんにご案内をいたしました。当日の参加者は、六六名を数えました(本校同窓生職員等を含む)。内容は下記の通りでした。

六 閉会挨拶 眞壁力副会長  
その後、記念撮影を経て、地元山武市成東の「米作」に席を移し、懇親会を和気藹々と執り行いました。このことをご報告申し上げます。

- 一 開会挨拶 記  
谷本篤副会長
- 二 清水新次同窓会  
会長挨拶
- 三 猿渡未治校長挨拶
- 四 議事
  - (1) 会務・会計報告
  - (2) 監査報告
  - (3) 役員改選
  - (4) 同窓会会報の発行について
  - (5) その他
- 五 講演  
平山義昭氏 (高二三回)  
『かかる先輩ありき  
～書物に残された  
戦没同窓生～』  
時間を超過しての熱い思いのこもったお話(概要は3ページをご参照ください)。本校の諸先輩方の受けられた試練と運命をテーマに、鎮魂と平和への思いが心に残る講演となりました。

一、平成二四年度会務報告	(資料)
二四年	
六月二八日 会計監査	
同 役員会	
同 同窓会準備	
八月五日 同窓会総会	
九月一九日 東京九十九同窓会	
一二月一二日 千葉県庁九十九会	
二五年	
二月二一日 大平支部同窓会	
三月六日 同窓会入会式	
三月七日 卒業式	
(卒業生三二二名に 卒業証書ホルダー贈呈)	
四月二〇日 千葉県警九十九同窓会	
二、平成二五・二六年度	
同窓会役員一覧	
会長 清水 新次 (高一五)	
副会長 谷本 篤 (高一三)	
副会長 市東 明義 (高一五)	
副会長 眞壁 力 (高一九)	
副会長 前嶋 康夫 (高二四)	
幹事 猿渡 未治 (校長)	
幹事 里見 勇 (高一六)	
幹事 内藤 光雄 (高二二)	
監事 西川 泰雄 (高一)	
監事 岡村 新吉 (高一)	
顧問 嘉瀬 尚敏 (高二)	



新役員 (左から嘉瀬、西川、岡村、市東、清水、谷本、眞壁、猿渡、里見、内藤の各氏)

## 「かかると先輩ありき」——書物に遺された戦没同窓生——

昭和三十三年三月発行の『九陵自治』に、海保俊郎先生の文が掲載されています。

「卒業して）出て行く君達のことを考えると、何故か、あの大陸の広野や南海の崖が思い出され、其処でだまつて死んでいった君達の先輩の姿が眼先にちらついてくる。

以前には、講堂にその写真を掲げてあったのだが、あの広い四方の壁に並べきれない程いっぱいいるのだ。それは、いつも静かな眼で、この故郷をみつめている。私の同級生もいる。教え子もいる。あれを無駄にしてはならない。あの死であがなわれたものは、その時々の教育行政とか教育方針と

平山義昭氏（高三三）



か、その他どんな思いつきなどともすりかえられてはならないものだ。毎年卒業期になると、こんなふうにはうろたえ、自分を責め、独り心を固めて唇を噛んでいる。」

私が調べたところ、成東中学同窓生の戦没者は三四〇名を数えました。

その中で一番古い卒業生は、大塚彪雄さん（中五）です。昭和十五年八月五日戦病死されました。『英世』（昭一七刊）は、大塚さんに捧げられた本です。戦没の九日前に郷里の父母に宛てられた手紙も収録されています。すでに体調のわるかった大塚さんですが、父母を気遣う情に満ちた文です。同じ頃妊娠中の長女や長男、次男を気遣う手紙もあります。厳格な軍人だった氏は偉大な家庭人でもありました。

同窓生最初の戦死者は、満州事変最初の戦闘に参加し、昭和六年一月二十七日奉天郊外で戦没された、軍用犬の父と呼ばれた板倉至さん（中一四）です。

日中戦争中の昭和十三年一月二日に江西省で戦病死されたのが、海保先生の同級生、小川治雄さん（中一九）です。氏のために『ある青春の記録』（昭四四刊）が出版されています。水戸高校・

東大で社会主義運動に関わり、投獄・出所後応召して戦病死しています。小川さんがもしこの世にあり政界に進出していたなら、党首・大臣いや総理にもと考えられるのは私ばかりではないでしょう。

真珠湾攻撃を飛行機にて参戦した七二〇名の一人が、布留川泉さん（中二八）です。源田実『真珠湾作戦回顧録』（昭和四七刊）に、パイロット訓練の名リーダーであった布留川さんのことが書かれています。その後、マリアナ沖で戦死され、二階級特進で中佐になっています。

戦争の転換点となったミッドウェイ海戦で戦没されたのが、稗田武司さん（中三一）です。空母飛龍の機関科士官でした。当時、成中から多数が進学した東京高船から海軍中尉となり、六月五日の戦闘で戦死されました。

ニューギニア戦線で散った陸軍航空隊の撃墜王（一七機撃墜）が、陸士から陸軍大尉となった高宮敬司さん（中三五）です。『日本陸軍戦闘機隊』（昭四八刊）に高宮さんのことが紹介されています。成東中学では剣道部員として全国大会で三回戦に進出し、先鋒として活躍しています。

最初の玉砕戦アッツ島の戦闘

で亡くなったのが、野球部員だった沼田（植森）宏之さん（中二一）です。沼田さんは玉砕の際に連絡員として潜水艦で東京に向かおうとして果たせず、戦後、戦死が確認されました。

報道写真集『海軍兵学校』（昭一八刊）の表紙を飾っているのが、『海兵七一期の顔』西田潤さん（中三六）です。昭和十九年九月三〇日、フィリピン東方沖で戦死されています。昭和十四年発行の『九十九会誌』に西田さんの作文「ある朝」が残っています。

『海軍学徒兵硫黄島に死す』（昭五五刊）に学徒兵戦死者一八三名とある中、唯一の千葉県出身者が高山弘さん（中三四）です。同書に生き残り学徒兵による高山さんの高潔な人間性についての証言があります。

昭和十九年マリアナ諸島のテナアン島で戦没されたのが作田宣三さん（中三五）です。テナアン島の生き残り伊藤孝治氏の『悲慘・テナアン島』（平二刊）の中に兵士から敬愛された連隊旗手作田さんのことが書かれています。

なお、作田さん同様、成中から陸士五六期に進んだ戦没者に石田国夫さん（中三五）高橋賢一さん（中三七）がいます。お

三方は奇しくも鳴浜村出身です。これに関連して行木幹雄先生（高三）の『三人の青年将校そして短歌』を資料としてご提供いただきました。ここにご報告と感謝を申しあげます。

JR成東駅前「礎」という碑があるのをご存じでしょうか。終戦二日前、軍用貨物列車がグラマンに空襲された際に殉職した駅員一五名、軍人二七名を後世に伝えようと建てられたものです。駅員の中に、成中を三月に卒業したばかりで弱冠一六歳の市東隆夫さん（中四二）がいました。成中卒業生中で一番若い戦没者となりました。

戦没者ではありませんが、二〇一一年二月二日に起きたニュージランド地震の日本人犠牲者の中に干場ひふみさん（高四〇）がいます。海外で看護師として働くという志ある彼女を誇りに思い尊敬します。だから志半ばで倒れたことが悔しいのです。

成東高校は、質実剛健・文武両道の校風のもと、平和国家日本の形成者、かつ、国際人としての資質を涵養する教育に励んでいることと想います。成高から大いなる志を持って国家社会のために尽力する人材が陸続と巣立ってくださることを祈念しています。

# 高校二十二年卒業 還暦記念学年同窓会

昨年から始められた還暦記念学年同窓会が、今年も実現しました。昨年同様還暦を迎えた仲間達が四月六日、再会を果たしました。同窓会に先立つ「母校春爛漫の観桜会」は、生憎の氣候異変のため中止となり、昨年の如く恩師と共に万葉の桜花の下喜びを分かち合うと言うわけにはまいりませんでした。予

定通り懐かしき校門と黒々とした風格有る桜樹を一目見ると同窓生が集まりました。総務部長三根良治、職員の内井中善夫他の諸先生が出迎えてくださり、校庭の桜花を見学できました。



そして、玄関前の桜の大木の下の記念撮影。

午後四時から、近くのドライブイン米作で同窓会。四十三名の同窓生、恩師柘植郁夫・松戸健・故戸井策次先生のご子息母校教諭戸井洋文の諸先生、清水新次同窓会長、猿渡末治校長の諸氏が一堂に会し、盛大に開催されました。



会長挨拶、乾杯の後四十数年ぶりの再会を果たした仲間や恩師との思い出話など談論風発に近況報告と二時間の宴は瞬間に過ぎていきました。宴の締めくくりは校歌斉唱。かつての応援団長金子武夫氏による恩師、来賓、幹事長寺田龍一氏へのエールで再会を約し、楽しき宴を閉じました。回想す四十有余年前、献酬談笑と友と、質実剛健校歌を唱ふ、同窓会延春の宵。(齊藤)

毎年九月一日、日本工業倶楽部にて六時より開催しております。同じ学舎を育った先輩・後輩と、あの時の想い出を顧みて楽しいひとときを語っております。

会では、毎回、同窓生による講演を行っています。

平成二二年度…鈴木孝政氏(高二五) 元中日ドラゴンズ。新聞には載らない入団当初のエピソード。

平成二三年度…布留川信行氏(高二〇) 八景島シーパラ

ダイス代表取締役社長。夢あるワンダーランドをめざしての取り組み。平成二四年度…松戸猛氏(高五) 元アクサ生命会長。外資系生保との心血を注いだ合併劇のお話。

今年度は、中村正弘氏(高一八) 日本躰道協会会長。「身と体の融和」の講演と大学生による実技が行われました。

社会で活躍されています。諸先輩の人間学を身近に感じ、自分自身を振り

返る機会を与えていただき、参加する喜びを感じております。乾杯の後は無礼講で、なつかしい故郷の話、あの時のマドンナとの甘酸っぱい出来事、道草ばかりの下校、仲間の安否、そして最後はお互いの健康状態……と話はつきません。

「人間健康が第一」をモットー

わっております。

## 東京九十九同窓会へのお誘い

東京九十九同窓会副会長 金田 順二

に又来年皆さんと会える楽しみを胸に、成東高校校歌を合唱して締めくくりとしております。80才を過ぎた大先輩から大学生の集まりには、同級会と異なった雰囲気があります。現在は忘年会の集まりにまで発展し、世代を越えた楽しさを味



わっております。まだまだ案内等の不備で行き届かない面もございますが、伝統ある成東高等学校の同窓生として、一年に一度、九月一日(つくも)にご参集していただければ幸いです。

事務局 椎名康雄(高二八) 中央区月島一―八― 一―二九〇五 TEL03-6219-5737 FAX03-6219-5738

## 千葉県九十九会 開催

県庁に勤務する成東高校九十九同窓生の集いが、一月三日(水)、昨年と同じ、千葉県庁近くの「プラザ菜の花」で開催されました。

当日は七〇名を超える盛会となり、県庁OBでもある清水新次同窓会長や母校の佐々木久教頭をお迎えして、久闊を叙することができました。会は和やかに進行し、お聞きは、恒例の成東高校校歌の斉唱でした。

会員は、年に一度の再会に、親睦を深めつつ、県政の課題に向けて決意を新たにすよい機会となっております。多数の会員の参加をお待ちしています。

# 成高生の進路今昔

例年、同窓会報に新しい卒業生たちの進路先をご報告しているところですが、過去の成高生と比較してどこが違うのか判然としないという先輩のご指摘を受けました。

そこで、今回は、四十年前（昭和四八年三月卒）と比較して、成高生の進路先はどう変化したのかを考えてみることにしました。なぜ、四十年前かという点、本校で『進路のしおり』が作られたのが昭和四一年からで、一番古くて区切りがいいのが四十年前だったという単純な理由からですが、昭和四三年の「受験生ブルース」から五年、受験熱はますます盛んとなり、現在と比較しやすい世相が既に存在したからでもあります。

まず、最大の変化は就職者の激減です。表1（のべ数）でおわりのとおり、近年、就職者は若干の公務員志望者に限られ、民間企業就職希望者はこの二年間各一名です。「成高は進学校」というイメージは昭和四八年にはずであつたと記憶していますが、実際には一クラス弱の就職者がいました。さらに十年たった昭和三八年と比べると、「激減」が妥当な表現とご理解いただけるでしょう。これは大学進学率の向上も

さることながら、民間企業の高卒事務職採用が激減したことも関係すると思われれます。就職希望者に就職先を確保することも今後忘れてはならない課題です。

次に、表2のとおり、大学進学先の「多様化」が指摘できます。進学先の学校数は1.5倍に増えています。昭和四八年に全国で405校あつた大学は、現在782校に増加しています。それに伴い成高生の進学先も多様化しているのです。ただし、国立大学については、顕著な多様化はみられませんが、より、昭和四八年の時点で、表3のように成高生の進む国立大は全国に広がっていたのです。

国立大については、のべ数の推移をグラフにしてみました（表4）。国立大の学費の上昇もあつて（昭和四八年に年間36,000円だった授業料は、現在535,800円です）、昭和五〇年代から私大人気が上昇しましたし、生徒の進路の多様化などもあつて、一概に数だけを比較することには問題がありますが、あえて数だけを捉えるならば、現役合格者数は今年が過去最高です。同窓生の皆さんにはいろいろな感想があるかと思いますが、イマドキの成高生も頑張っていることは認めてあげてください。（田井中）

表1 成高生（現役・のべ数）の進路先比較

	国公立大	私立大	進学計	公務員	民間企業	就職計	大学進学率 (全国平均)
H25	48	424	472	6	1	7	55.1
S48	22	169	191	12	24	36	32.7
(S38)	26	116	142	61	83	144	15.4

表2 大学進学先の学校数

	平成25	昭和48
国公立	23	21
私立	100	67
計	123	88

表3 成高生の進路先

国立大学 学校名	平成25		昭和48	
	現役	旧卒	現役	旧卒
北海道	0	0	2	0
東北	0	0	1	1
岩手	0	1	1	1
福島	0	0	1	0
金沢	0	0	1	0
信州	0	0	0	1
茨城	8	0	3	1
筑波(東京教育)	1	0	2	0
宇都宮	1	0	0	0
群馬	1	1	0	0
埼玉	2	0	1	1
千葉	15	6	5	5
東京海洋(東京高船)	1	0	1	0
東京農工	0	0	0	1
電気通信	1	0	1	0
東京	0	1	0	0
東京学芸	2	0	0	1
横浜国立	1	1	1	0
新潟	1	0	1	0
静岡	1	0	0	1
名古屋工業	0	0	1	0
三重	0	1	0	0
大阪教育	0	1	0	0
島根	0	1	0	0
大分	0	1	0	0
高崎経済	1	0	0	0
首都大東京(都立)	0	0	0	1
横浜市立	0	0	0	1
千葉保健医療	7	0	0	0
神奈川保健福祉	2	0	0	0
都留文科	3	0	0	0
国公立大計	48	14	22	15

私立大学(抜粋)	平成25		昭和48	
	新卒	旧卒	新卒	旧卒
青山学院大	9	4	0	4
学習院大	2	8	2	3
北里大	2	0	2	1
共立女子	13	0	1	0
慶応大	0	2	1	1
国学院大	9	8	5	2
駒澤大	4	4	5	3
芝浦工大	0	1	1	1
順天堂大	3	1	1	0
上智大	1	2	3	1
成蹊大	2	2	0	0
成城大	3	6	0	0
専修大	5	2	6	1
中央大	4	8	9	9
津田塾大	1	0	2	0
東京女子大	2	0	2	0
東京農大	8	0	3	0
東京理大	6	5	3	7
東邦大	13	2	1	1
東洋大	28	17	4	4
日本大	36	17	20	8
日本女子大	6	1	3	0
法政大	19	9	5	10
武蔵大	5	0	1	0
明治大	7	7	10	6
明治学院大	6	4	3	3
立教大	8	8	5	2
早稲田大	5	5	9	16
立命館大	2	1	2	2
私立大計	424	169	169	110

## 傘寿のクラス会

昭和二六年（高三回）の三年D組（越川勝哉ルーム）は、毎年一〇月の第三土曜日、千葉市内に集っている。本年は、毎年大阪から駆けつける若林旭君（元大阪大丸店長）を交えて81歳と80歳の八名が参会。これまでに恩師をはじめ16名の級友が他界、30名が存命。

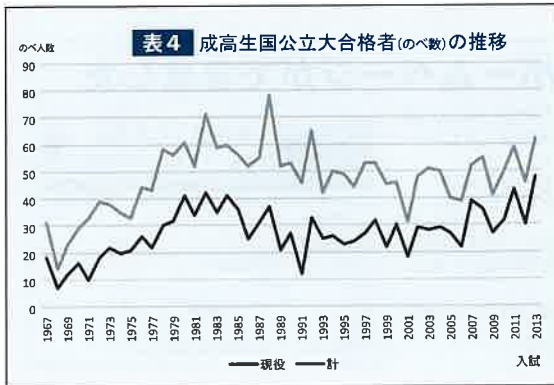
昭和二〇年四月、旧制五年の成東中に入學、昭和二三年の学制改革で併設中卒、即新制高校一年生となり、昭和二六年三月卒業、と計六年間を九陵の地で学んだわけである。集まるとその六年間の思い出話、ゴルフ談



(畑戸)

義、闊談等と話が尽きることはない。最後は、「一人では会は成立しない。最後の二人になるまで集まろう」という司会の言葉で次回を約して散会となる。

表4 成高生国公立大合格者の(のべ数)の推移



# 『成高』に着任して



校長 末治 猿渡

に主眼を置いて教育活動を実施して参りました。

①基礎学力の定着と自主的・積極的な取り組みで課題解決能力を高め、社会において自己実現できるように支援する。

②部活動への積極的な参加により心身を鍛錬し、人格の陶冶を図る。

③キャリア教育を推進して人生観や職業観を養い、自己の適性に応じた進路を選択できるように支援する。

本校は、平成二十二年度より県の進学指導重点校の指定を受けております。この春は、国立大学の現役合格者数が四十八名と、ここ十年で最も多く、素晴らしい進学実績を残しました。

さて、本校の教育目標は、『質実剛健』の校訓のもと、文武両道による全人的な人間形成を推進し将来国家及び社会に有用な人物となるよう育成することです。すなわち、世に出て有為な人材となる根本を培う日々が成東高校での高校生活なのです。授業や部活動で友と切磋琢磨し、個として成長しつつ人との繋がりを広げ、深める。そして夢を抱き実現を目指す意志と行動力を育む、これが本校の使命だと自負しております。

その実現のため、次の三項目

に主眼を置いて教育活動を実施して参りました。

## 校長 猿渡 末治

始められるようにしました。

そして一年生を対象に実施している「職業研究講演会」では、今後とも県内外の同窓の方々の御指導を仰ぎたいと存じます。本校の懐ゆたかな教育力を生かしてキャリア教育を進めて参ります。

日本には今、少子高齢化、東日本大震災被災地の復興、原発問題等々、多くの課題が山積しています。二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定は明るいニュースですが、

生徒達が社会に出た時、良い世の中になつてくるとは限りません。むしろ悪くなつていくかもしれない。しかし、日本の将来は、彼等が活躍してこそ希望

が開けていくと私は信じています。このグローバル化社会の扉を開く鍵を握っているのは彼等です。自己実現と社会貢献を果たす人材育成を目指す所以です。職員一同、一丸となって尽力いたしますので、今後とも母校の後輩達のためにお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げます。

結びに、同窓会の一層の御発展を祈念して、着任の挨拶といたします。

## 陸上競技部 インターハイ出場!

三年に在籍中の陸上競技部、富田佳輝君が、総体陸上競技大会千葉県大会八種競技で五二五〇点で優勝し、七月三日・三一日に大分市大分スポーツ公園で開催された全国高校総体陸上競技の八種競技に千葉県代表として出場しました。

富田君は、全国大会でもさらに五三三八点と記録を伸ばし、全国一二位の結果を残しました。富田君は、「全体的にはよかったです。とどこどころでミ

スがあり、それが響いてしまいました。同窓生の先輩のみならずには、遠征等の際、いろいろな支援をしていただき、本当に感謝しています。ありがとうございます。と、全国大会出場の感想を述べてくださいました。

彼の将来の夢は体育教師とのことで、現在、進路実現を目指して受験勉強に奮闘中です。



大学進学後も陸上を続けるという富田君に、これからも、温かいご声援をお願いします。

## 同窓会のホームページができました

成東高校ホームページの刷新に伴い、成東九十九同窓会のページを作成しました。成東高校ホームページ：<http://cms2.chiba-c.ed.jp/narutou-h/> 左側のメニューから「九十九同窓会」を選んでください。三二同窓会のお知らせから、近況報告まで、同窓生の気軽な情報発信の場にしたと考えています。掲載希望の方は、[y.tink@chiba-c.ed.jp](mailto:y.tink@chiba-c.ed.jp)までメールで記事をご送付ください。何卒よろしく申し上げます。



# 成高生は今 ——女性生徒会長に聞く

現在の成東高校の生徒会長は、二年生の鍵田茜（やりた あかね）さん。

六名の生徒会役員の中で、紅一点です。男女の比率がほぼ半分になっています。本校においては女性の生徒会役員は特異ではありませんが、彼女は特に生徒会長としてテキパキと仕事をこなす、際だって有能な会長さんとお伺いしました。

そんな彼女に、最近の成高生の姿を聞いてみたいと思います。

——生徒会では現在どのような仕事をなさっているのでしょうか。文化祭などの生徒会行事や、部活動のための予算配分の仕事などをしています。  
——なぜ生徒会長をやるうと



# 九陵會

思ったのですか。

成高の生徒会役員の活動ぶりに興味があつて、中学生の時から、成東高校に入ったら生徒会活動をしように決めていました。

——現在の生徒会役員の中で会長さんだけが女性なのですが、やりにくくはありませんか。

まったくありません。みんなが助けてくれるので、非常に快適に仕事ができます。

——男どもを従えているわけですね。

いえ、そんなじゃなくて、あなたかか支えてもらっているとい

う感じですか。

——成高の生徒会長経験者からは、数多くの人材が出ています。が、何か心がけていることはありますか。

特別なことはありませんが、今の在校生のために何ができるかというのを常に考えるようにしています。

——生徒会室は、今の校舎ができて以来、ずっと一階の現在の場所にあるようですね。

え、そうですね？  
——あなたの後ろにあるロッカーは、僕が成高生の時と同じものだと思います。昔、何度も書類を出し入れしていたので記憶があります。

——成東高校には「質実剛健」の校風は残っていると思いますか。

はい。残っていると思います。そういう歴史のあるものだとは知りませんでした。

——最近の成高生はどんな感じですか。

皆、まじめで、きちんとしていますね。昔に比べておとなしくなったという方もいますが、校内の雰囲気も和気あいあいとしていて、楽しく学校生活を送っているなど感じます。

——昔の成東高校はバンカラで、先生方も個性にあふれていましたか……

今の先生方は、怖いということではなく、勉強はもちろん、学校生活や進路のことなどを、やさしくていねいに指導してくださいませね。

——成東高校には「質実剛健」の校風は残っていると思いますか。

はい。残っていると思います。

——たとえば……

自分の進路の決め方であるとか、部活動への取り組み方であるとか、周りの風潮に流されずにしっかりと自分を見つめて決めたいと思います。「文武両道」にしても、校風はきちんと受け継がれています。

——成高の同窓生にメッセージを……

今の成高生も、先輩方同様に、勉強に部活動に、全力で取り組んでいます。文化祭などの折りに、ぜひ母校を訪ねてください。しっかりとした後輩の姿を見て、安心してもらえらるものと信じています。

最後は、心強い発言でしめくくってくれた会長でした。

## 資料提供のお願い

同窓生の温かいご支援により、本校所蔵の同窓会関係資料の欠落も補充されつつあります。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

ただ残念なことに、下記×印の資料が完全に保管できておりません。旧制中学・併設中学につきましては、2年分を除いて本校では所蔵できていない現状です。

はなはだ恐縮ではありますが、資料収集について、皆様のさらなるお力添えをお願いいたします。

### 旧制中学・併設中学

卒業アルバム 昭和4(中25回)・16年(中37回)以外欠本

### 新制高校

卒業年	普通科	理数科	卒業アルバム	その他資料
1949	24	1	×	
1950	25	2	×	
1951	26	3	×	
1952	27	4	×	
1953	28	5	×	
1954	29	6	×	
1955	30	7	×	
1956	31	8	×	
1957	32	9	×	
1958	33	10	×	
1959	34	11	○	
1960	35	12	×	
1961	36	13	○	
1962	37	14	×	
1963	38	15	○	
1964	39	16	○	
1965	40	17	×	
1966	41	18	○	九陵自治66号欠
1967	42	19	○	
1968	43	20	○	
1969	44	21	×	
1970	45	22	×	
1971	46	23	○	
1972	47	24	○	
1973	48	25	○	
1974	49	26	1	○
1975	50	27	2	○
1976	51	28	3	×
1977	52	29	4	○
1978	53	30	5	○
1979	54	31	6	○

成東高PTAだより10,11号欠

# 創立百十周年記念グッズ

## 購入ご協力のお願い

千葉県立成東高等学校は明治三十三年（一九〇〇年）に創立され、平成二十二年に百十周年を迎えました。そこで成東九十九同窓会では、旧制中学校当時の本校の佇まいを偲ぶよすがとなっている旧武道館を、展示を主体とした「歴史館」として改装し同窓生の心の拠りどころとして未長く活用してゆきたいと考えました。

旧武道館は、母校の創立から二十一年目の大正十年十一月に、同窓会や地域の方々のご尽力によって竣工し寄贈されました。学校の新設から、わずか二十年で県および学校へ同窓会が建物を寄付したという前例は、他にありません。本校に寄せられた卒業生や地域の方々への熱い期待を今に伝える、貴重な歴史的建造物なのです。

この意を汲み、本校卒業生の漫画家立原あゆみ氏（市川洋一氏）が、旧武道館を配する情景の原画を描き下ろしてご寄贈下さいました。入学の春から卒業間近な冬までを綴った十二枚の作品には、四季折々の風物と年を追って成長してゆく少年と少女が、詩情豊かに描かれています。皆様にはこの会報の第1頁でもご紹介して参りましたが、原画には彩色

が施されいっそうの鮮やかさで心に残ります。その一学年の、春夏秋冬の四枚を額装にしました。成東高校ならではの記念グッズです。作品の味わいを生かして丁寧に仕上げましたので、未長く母校を身近に感じていただける逸品だと自負しております。同じイラストでクリアファイルと葉もご用意しました。

また、創立まもなく作られて、九十九魂の発露として愛唱されてきた校歌の扇とCDも制作しました。扇面には卒業生の書家宮負一昭氏の揮毫による校歌が躍動しています。CDには本校の新旧の画像も収録しました。

さらに、同窓生の発案により植樹され育まれてきた校庭の九十九本の桜の由来と配置や品種をご紹介します『桜ガイドマップ&ガイドブック』も編集出版しました。

販売収益は、旧武道館の補修改装費用に充ててゆきたいと考えております。趣旨をご理解の上ご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

詳しくは、成東九十九同窓会HPの「ネットショップ」をご覧ください。また、商品カタログ等をご希望の際には、街波通信社あてご連絡下さい。TEL・0475-53-2732



## 編集後記

今年こそ、年内刊行と意気込んでみたものの、編集作業の遅れで年越しの送付となってしまいました。まずは、伏してお詫び申し上げます。

平成二五年四月に母校で教鞭を執ることとなって、まず驚いたこと、「女子生徒が増殖している！」。理科科出身ということもあり、母校にはマッチョなイメージをもっておりませんでした。

冬にも暖房のなかった母校にも、暖房はおろか冷房まで入り、時代の変化を痛感しています。

とはいえ、時代は男女共同参画へ、現生徒会長の言うとおり、母校も「文武両道」「質実剛健」の校風を、時代を超えて軽やかに受け継いでいく時期なのかもしれません。(T)

### 「成東高校同窓会報」編集部

〒289-1326

千葉県山武市成東3596

千葉県立成東高等学校内

TEL・0475-82-3171

FAX・0475-82-0144

### 【編集責任者】

畑戸 輝夫 (高3回)

### 【編集委員】

齊藤 功 (高22回)

田井中善夫

多田 達子 (理数1回・高26回) (高35回)